

リスクアセスメントを 始めましょう

(刈払機作業編)

- 1 このパンフレットの事例は、刈払機による造林作業についてリスクアセスメントを実施した人たちの報告書です。
- 2 リスクアセスメントは、みんなで議論し、少しでもリスクを小さくし、安全に作業が進められるようにすることがもっとも大切です。
- 3 初めから完璧なものをつくろうとしないで、まずリスクアセスメントを始めましょう。「危険をよみ、災害の芽をつむ」チカラが養われるようになります。
- 4 対象となる作業システムの全体像を、要素のつながりとして、その特徴をよく理解し、作業改善の方向を見いだしましょう。
- 5 徐々に、いままで見えなかったリスクアセスメントのすばらしさが、見えてくるはずです。
- 6 2～3ページの留意事項を参考に「現場で安全を脅かすものは何か」の原点に立ち返り、リスクアセスメントに取りかかりましょう。

※ 参考として、テキストの事例を一部修正して（事例2）を最後のページに掲載しました。



リスクアセスメントの留意事項

危険要因の洗い出し

危険要因の洗い出しを行う場合は、次のことに留意しましょう。

- ・作業システム全体をみて、対象作業の作業の流れから、「どうも危ないな」というものから洗い出しましょう。
- ・対象作業をわかりやすい単位で区分し、「ちょっとおかしい!」と感じる「危険の芽」まで踏み込んで洗い出しましょう。
- ・「現場に足を踏み入れ、自分の目で確かめる」の精神で現場をイメージして、「危ないことはないか」という目で、危険要因の洗い出しをしましょう。
- ・機械は故障する、人はミスをする、ということを前提に作業現場をよく観察してみましょう。
- ・細かいことにとらわれず、作業システム全体の中で災害発生率の高い危険要因に重点をおいて洗い出しましょう。
- ・いろいろな立場の人から意見を聞くようにしましょう。
- ・危険要因の洗い出しはつぎのリスク見積につなげるため、「～するとき、～したので、～になる」という形で表しましょう。

● 危険要因の洗い出しの目のつけどころ（刈払機作業の例）

〈機械・装備関係〉

- ① 作業に適した機種（Uハンドル等）、身長に合った操作桿を使用しているか。
- ② 適切な保護具（保護帽、防塵めがね、防振手袋）及び服装等をしているか。
- ③ 肩掛け・腰バンド、吊り金具を使用し、適切に装着しているか。
- ④ 刈払機の点検・整備は十分で、適切に飛散防護カバーを取り付けているか。
- ⑤ 刈払い対象物に適した刈刃で正しい目立てがなされているか。

〈刈払機の使い方〉

- ⑥ 刈払った幅だけすり足で進むなど、基本動作を守っているか。
- ⑦ キックバックの起き易い刈刃の前方右側三分の一で刈払っていないか。
- ⑧ 刈幅は1.5m程度で、刈刃を右から左に動かしているか。
- ⑨ 往復刈り、刈刃でたたき、腰より高い位置での刈払い等をしていないか。
- ⑩ エンジンを止めないで、絡まった草等を取り除いていないか。

〈刈払い作業の方法〉

- ⑪ 上下作業、近接作業になっていないか。
- ⑫ 急傾斜地や足場の悪いところで、滑ったり、転んだりする恐れはないか。
- ⑬ 山に向かって右から左へ刈進み、斜面の下から順に上へ刈列を変えているか。
- ⑭ 刈列の刈り始めと刈り終わり、作業中の合図は決められているか。
- ⑮ 現在の作業仕組みで危ないところはないか。

〈安全衛生〉

- ⑯ ハチ刺され対策、熱中症対策はなされているか。

リスク見積りと評価

洗い出された危険要因に対して、リスクの見積り・評価を行きましょう。

- ・リスクの見積り・評価は複数の人で実施しましょう。
- ・細かく見積もらないで大まかに見積りましょう。
- ・リスクの見積りにあたっては、具体的な災害の起こる可能性とケガの程度を想定してみましょう。
- ・リスク見積りは、作業内容をよく考えて、十分話し合い、グループの総意として決めましょう。
- ・そのリスクの大きさを明らかにしましょう。

リスク低減対策

リスク低減対策の検討を行う場合、リスクの高いものから優先的に検討を行きましょう。

- ・リスク対応は、どのようにしてリスクを小さくするかを考えましょう。
- ・リスク対応は、リスクゼロを目指すのではなく、リスクを許容できる水準より低いところまで引き下げましょう。
- ・作業システム全体を要素のつながりとして検討し、リスク低減対策の方向を見誤らないようにしましょう。
- ・物事を裏返しにした対策をたてない（例えば「材が宙吊りになる」→対策「材を宙吊りにしない」）で具体的な対応策を考えましょう。
- ・リスク低減対策の検討は、次の順序で検討しましょう。
 - ① 先ず危険作業をなくしたり、見直したりしてリスクを小さくすることを検討しましょう。
 - ② 次に、何か機械や設備などで対策がとれないか検討しましょう。
 - ③ 3番目に、防護ズボンなど安全保護具の使用を検討しましょう。
 - ④ 4番目に、教育訓練、作業管理等の対策を検討しましょう。
- ・コストの多少でなく妥当なリスク対応を検討しましょう。
- ・対策後にリスクの見積り・評価を再度行い、許容可能かどうかを検討しましょう。

改善にあたり考慮すべき事項

- ・対策後のリスクレベルが確保されるよう、具体的な方法を検討しましょう。
- ・具体的な実施にあたっては、ないものねだりをせず、一步一步前進していくように優先順位をつけて実施しましょう。
- ・アセスメントの実施結果を作業員全員に周知し、事業者と作業員が一緒になって取り組みましょう。